

青森県子どもの生活実態調査の 結果について

青森県健康福祉部こどもみらい課

青森県子どもの生活実態調査概要

1 調査の目的

子どもの貧困は、単なる経済的困窮にとどまらず、様々な要因が複合的につながることで世代間の貧困の連鎖を招いていると言われていたことから、その実態を多面的に把握するため実施

2 調査実施期間

平成30年11月9日～12月7日

3 調査対象

小学校5年生と中学校2年生の子どもとその保護者（住民基本台帳から1/4の者を無作為抽出）
子ども 5,187人 保護者 5,187人 計10,374人

4 調査実施方法

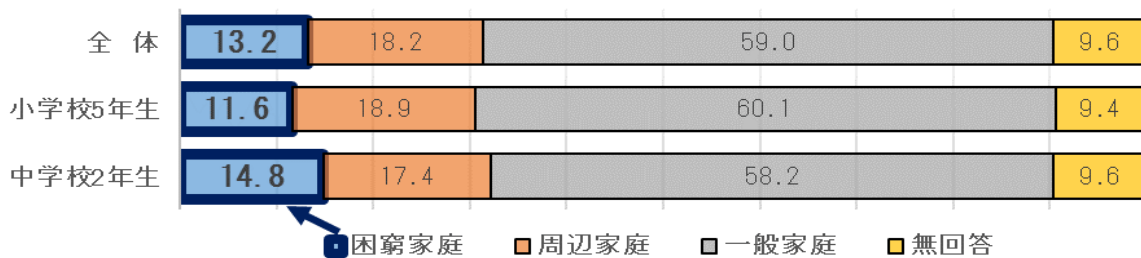
郵送によるアンケート調査

5 調査内容

①生活困難度 ②教育の機会均等 ③健やかな成育環境 ④支援制度の利用意向等

「生活困難度」について

困窮家庭は全体では13.2%



子どもの貧困の実態を多面的に把握するため、「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の3つの要素の回答から調査（東京都などと同じ調査）

2つ以上に該当世帯⇒**困窮家庭**
1つに該当世帯⇒**周辺家庭**
該当なし⇒**一般家庭**

A 低所得	所得が国民生活基礎調査の貧困線（例：親2人子ども1人の三世帯の場合211万円）の基準を下回る世帯
B 家計の逼迫	①電話料金②電気料金③ガス料金④水道料金⑤家賃⑥食料⑦衣類について、経済的理由により支払えなかったことが1つ以上ある世帯
C 子どもの体験や所有物の欠如	海水浴に行く、毎月お小遣いを渡す、学習塾に通わせる、自宅で宿題をすることができる場所がある等の15項目について、欠如している項目が3つ以上ある世帯

目 次

1. 保護者の状況（保護者調査から）	1
(1) 保護者の就業状況、家計に関すること	1
(2) 保護者の健康状態、成育環境に関すること	4
(3) 子どもの健康や教育、体験に関する現状・課題に関すること	5
(4) 保護者や子どもに対する支援に関すること	8
2. 子ども本人の状況（子ども調査から）	12
(1) 持ち物・所有物に関すること	12
(2) 家庭生活に関すること	14
(3) 生活習慣に関すること	15
(4) 学び・学習・学校生活に関すること	17
(5) 自分のこと、進路・自立に関すること	19

1. 保護者の状況（保護者調査から）

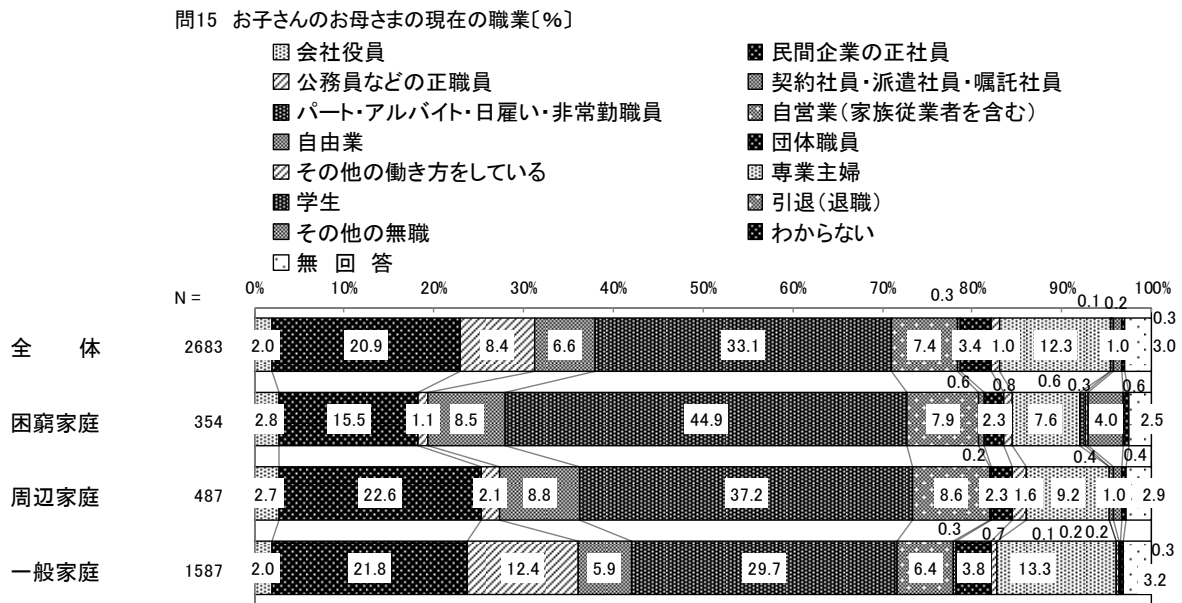
(1) 保護者の就業状況、家計に関すること

①就業状況

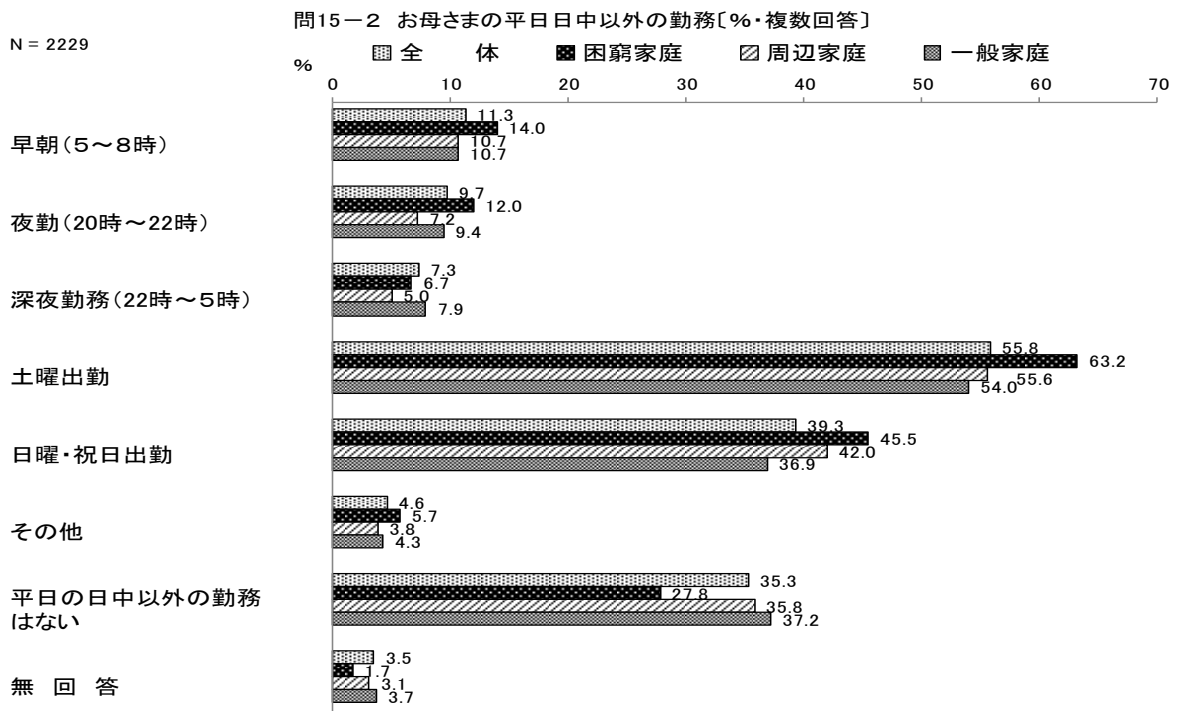
困窮家庭では、一般家庭と比べて父親・母親ともに、正規職員の割合が低い傾向で、特に母親は「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高い。

平日日中以外の勤務では「土曜出勤」と「日曜・祝日出勤」の割合が高く、困窮家庭の母親はそれぞれ 63.2%、45.5%で、困窮家庭・周辺家庭の父親はそれぞれ 70%台、50%台後半となっている。

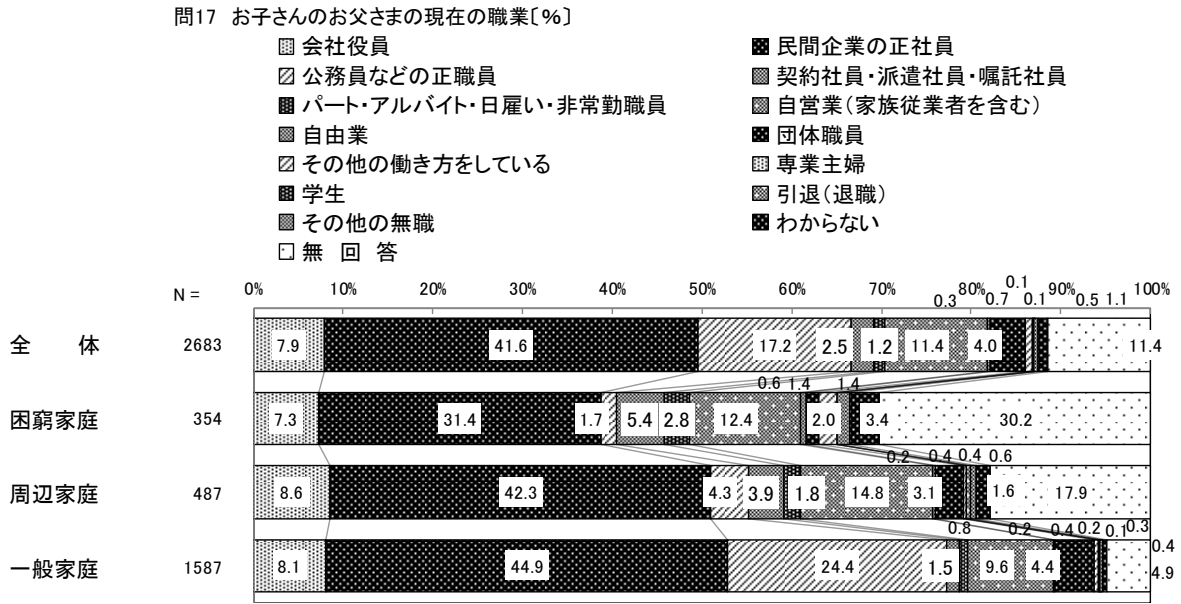
図表 母親の職業(保護者 問15 P58)



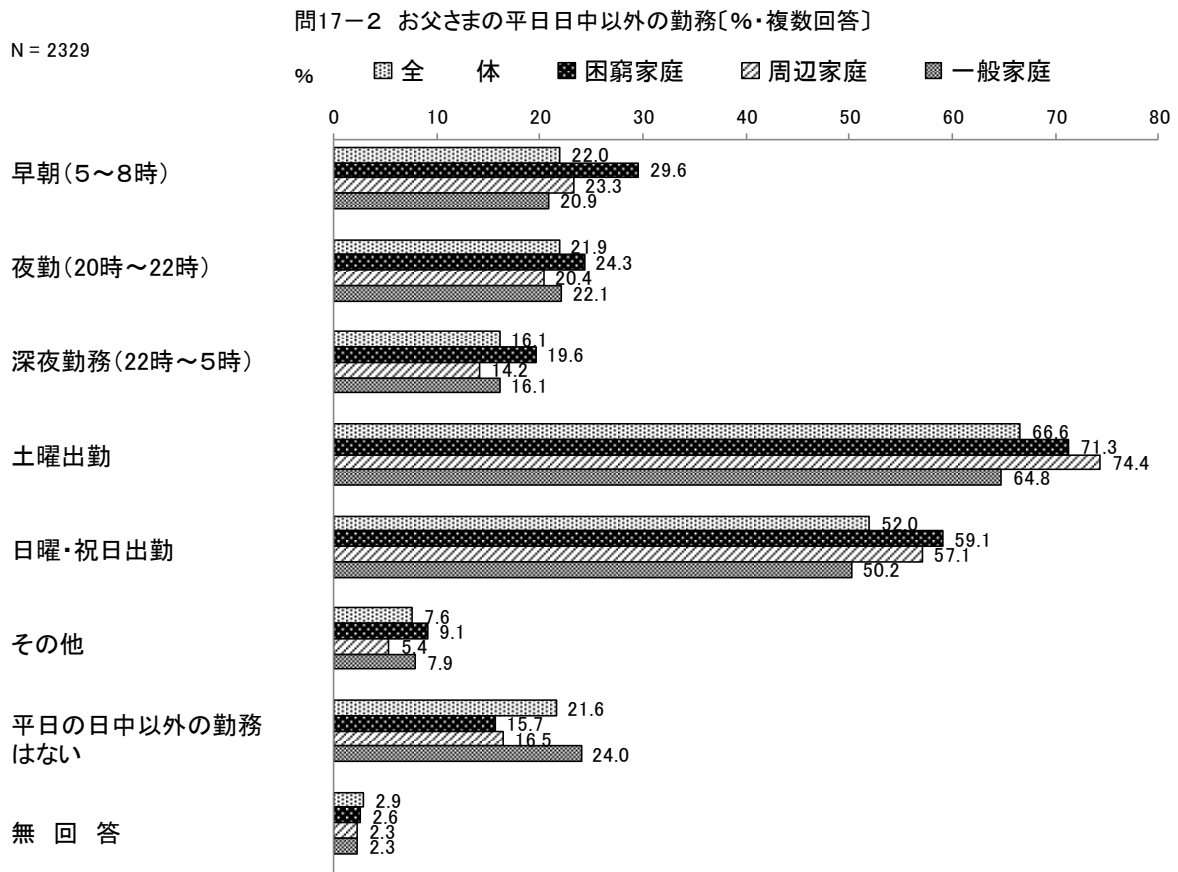
図表 母親の平日日中以外の勤務(保護者 問15-2 P61)



図表 父親の職業(保護者 問17 P65)



図表 父親の日中以外の勤務(保護者 問17-2 P68)



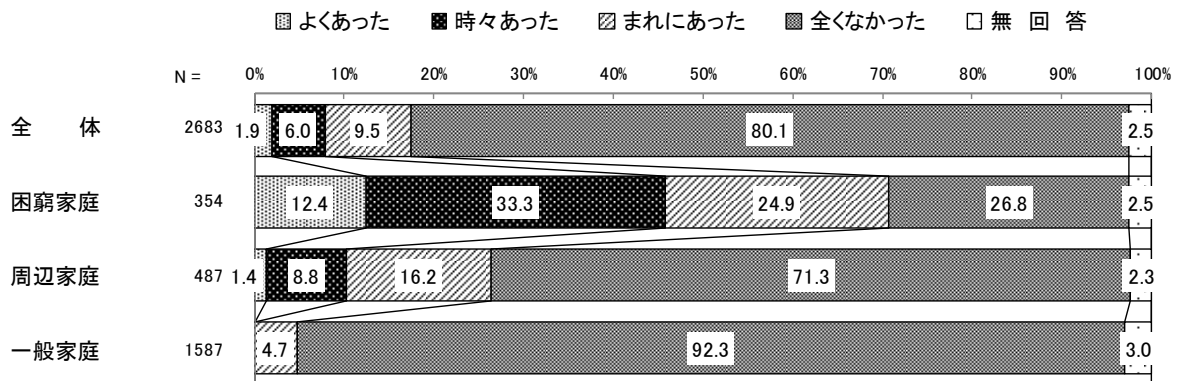
②家計に関する項目

『過去1年間に経済的な理由で食料を買えないこと』や『過去1年間に経済的な理由で衣類を買えないこと』が困窮家庭では「よくあった」がそれぞれ 12.4%、20.9%、「時々あった」がそれぞれ 33.3%、35.9%と高い。

生活費のうち、『過去1年間に、経済的な理由で電気料金を支払えないこと』は困窮家庭では「あった」が 26.3%と高い。

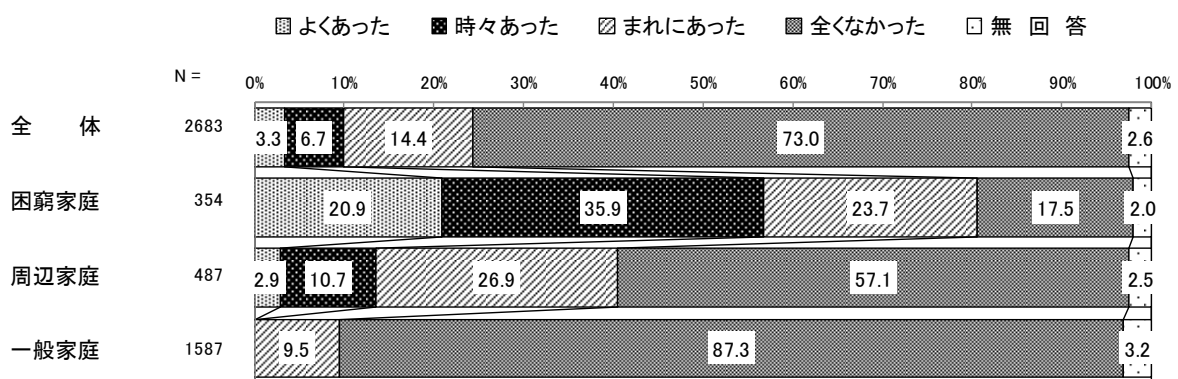
図表 過去1年間に、経済的な理由で食料が買えなかったことがあった（保護者 問23 P83）

問23過去1年間にお金が足りずに食料を買えなかったこと[%]



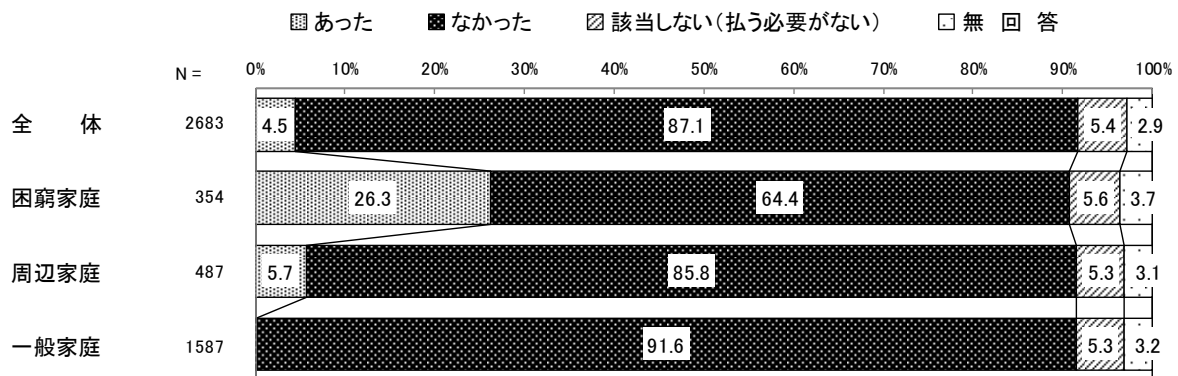
図表 過去1年間に、経済的な理由で衣類が買えなかったことがあった（保護者 問24 P84）

問24過去1年間にお金が足りずに衣類を買えなかったこと[%]



図表 過去1年間に、経済的な理由で払えなかったことがあった 電気料金（保護者 問25B P86）

問25 過去1年間に支払えなかったことB電気料金[%]



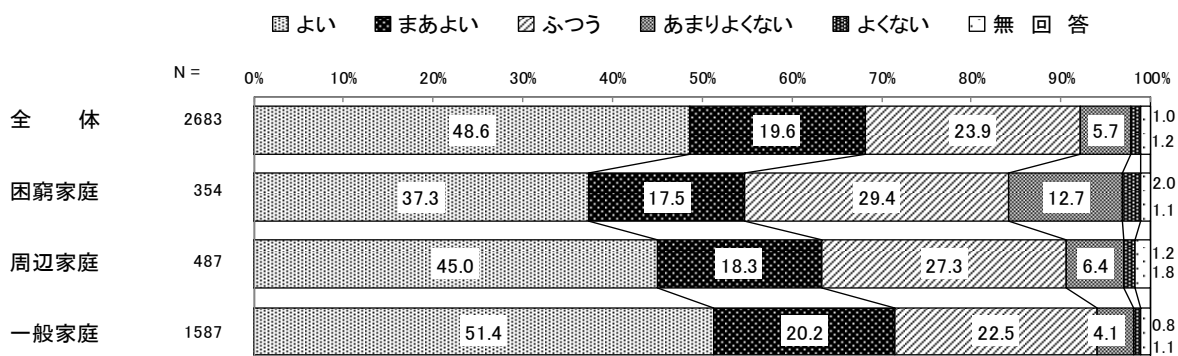
(2) 保護者の健康状態、成育環境に関すること

①心身の健康状態

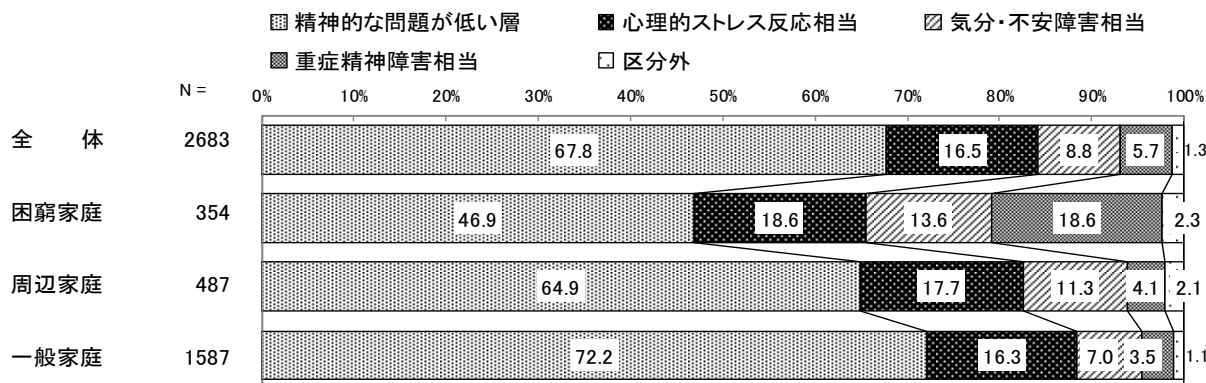
困窮家庭では健康状態が「よい」が 37.3%と低い。また、抗うつ傾向においても「精神的な問題が低い層」は一般家庭と比べると低く、身体の健康に加え、心理的な面での不安感はその家庭より大きい。

図表 健康状態(保護者 問7① P13)

問7 ①あなたの健康状態[%]



図表 抗うつ傾向(保護者 問9 P24)

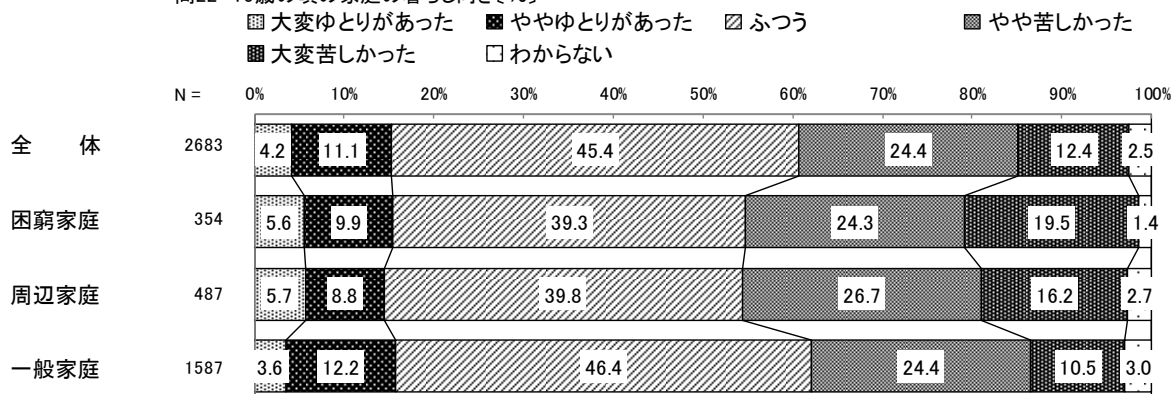


②成育環境

困窮家庭・周辺家庭の保護者の『15歳頃の家庭の暮らし向き』は他の家庭と比べ『苦しかった』(「やや苦しかった」と「大変苦しかった」の合計)が43%前後と一般家庭より高く、現在の状況への影響が大きい。

図表 15歳の頃の家庭の暮らし向き(保護者 問22 P81)

問22 15歳の頃の家庭の暮らし向き[%]

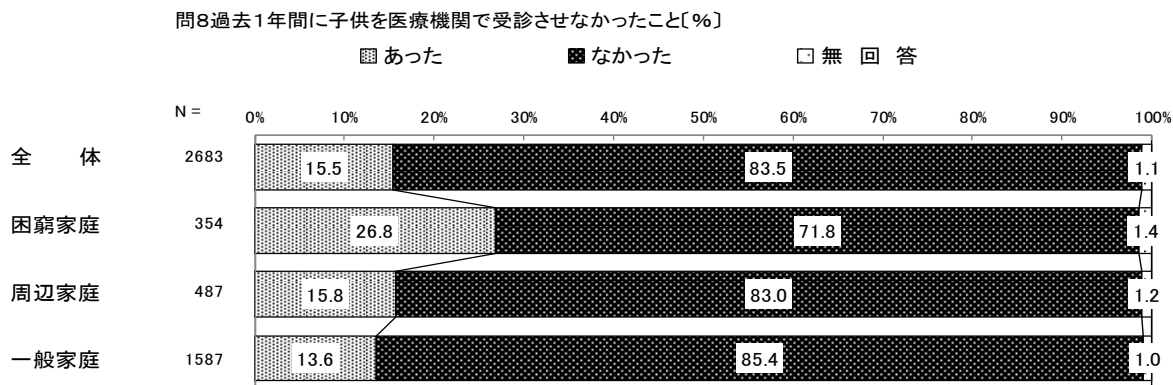


(3) 子どもの健康や教育、体験に関する現状・課題に関すること

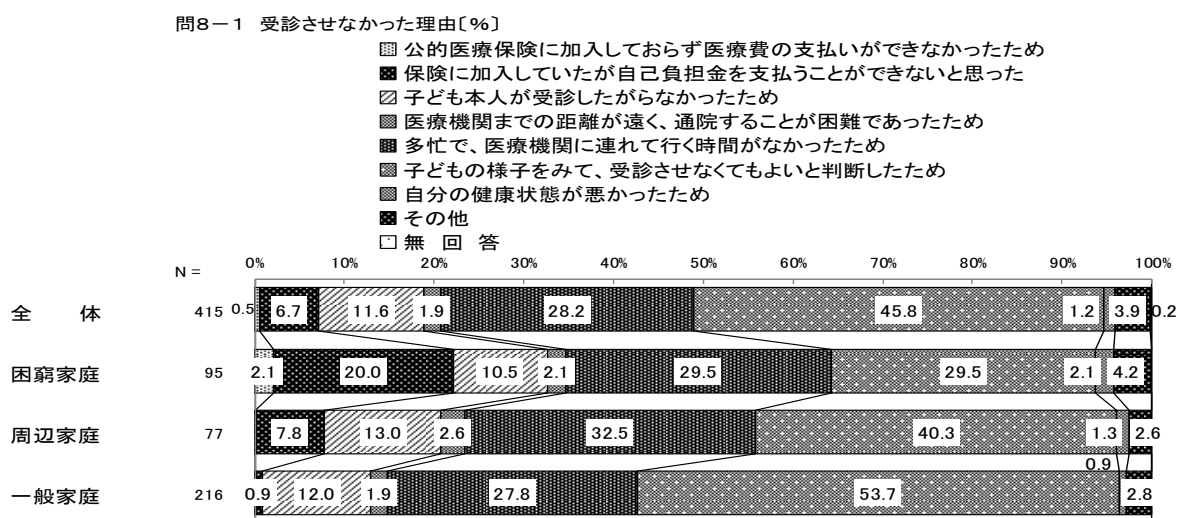
①病気の際の受診

医療機関に受診させなかったことは、困窮家庭で「あった」が26.8%となっており、周辺家庭・一般家庭よりも10%以上高い。困窮家庭の受診させなかった理由では、「保険に加入していたが自己負担金を支払うことができないと思った」が20.0%と一般家庭に比べて高い。

図表 医療機関に受診させなかったことの有無(保護者 問8 P15)



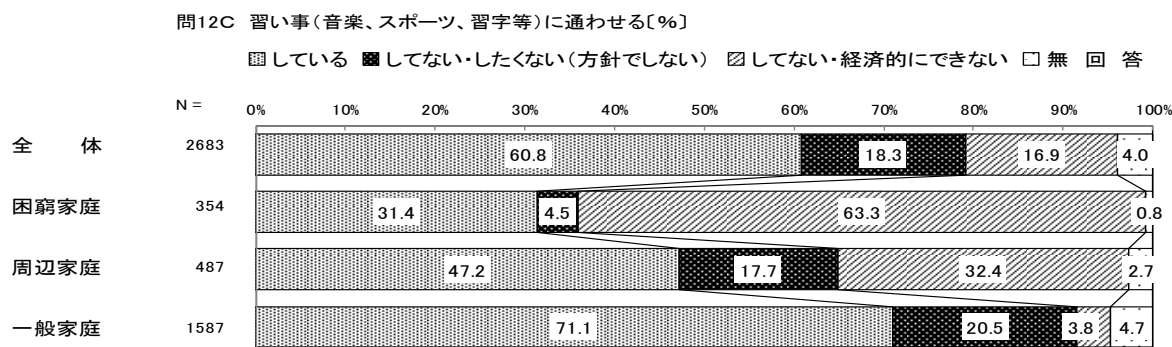
図表 受診させなかった理由(保護者 問8-1 P16)



②習い事・家庭でしていること

習い事の状況については、「している」は全体で60.8%と高いが、困窮家庭では31.4%と低く、「していない・経済的にできない」が63.3%と高くなり、格差が生じていると考えられる。

図表 習い事(音楽・スポーツ・習字等)に通わせる(保護者 問12C P44)



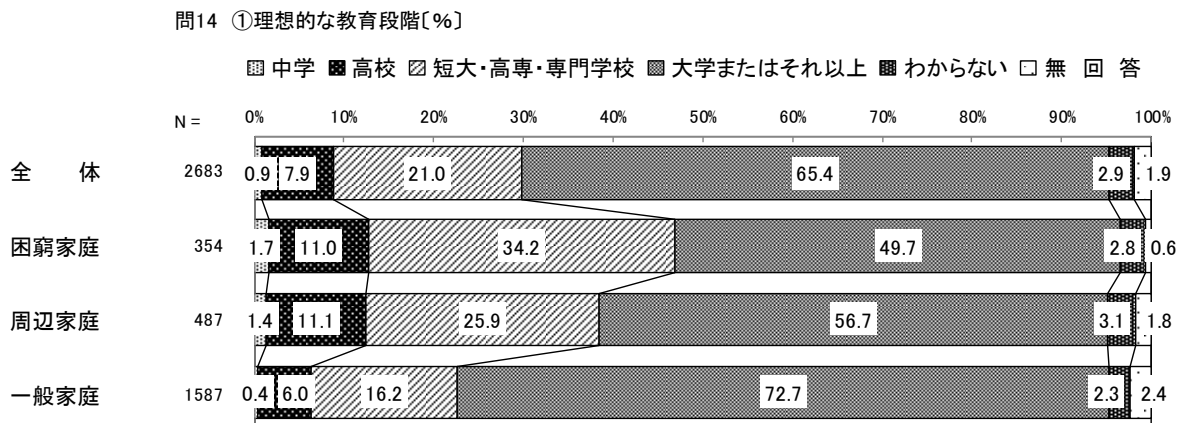
③受けさせたい教育段階

理想的な教育段階は、一般家庭では「大学またはそれ以上」が72.7%と高いが、困窮家庭と周辺家庭ではそれぞれ49.7%、56.7%となっている。

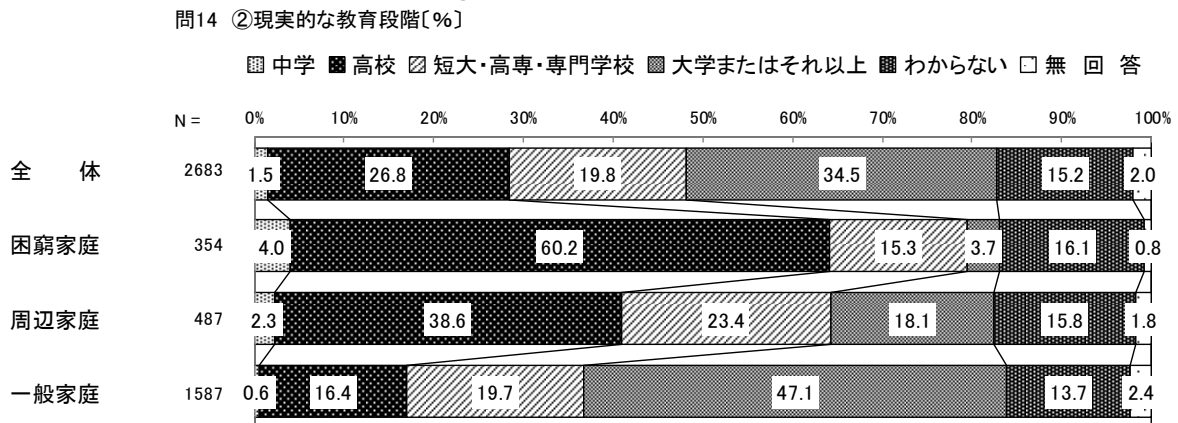
現実的な教育段階は、一般家庭では「大学またはそれ以上」が47.1%に下がるが、困窮家庭と周辺家庭では一般家庭以上に激減し、それぞれ3.7%、18.1%となっている。また、困窮家庭と周辺家庭では「高校」が最も高く、それぞれ60.2%、38.6%となっている。

その理由として、「経済的に余裕がないから」が困窮家庭と周辺家庭では70%前後となっており、経済的な理由により保護者の考える子どもの教育段階の選択肢が限定される傾向がみられる。

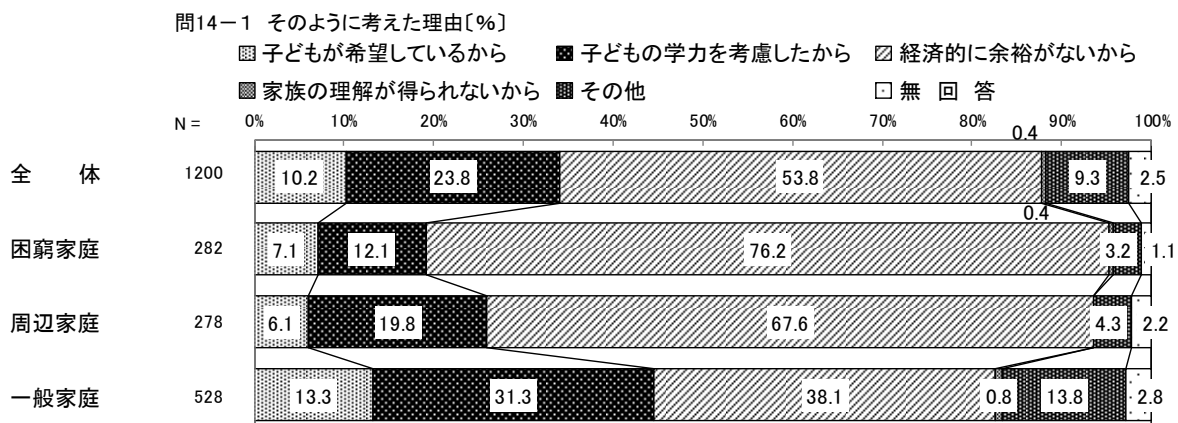
図表 理想的な教育段階(保護者 問14① P52)



図表 現実的な教育段階(保護者 問14② P53)



図表 そのように考えた理由(保護者 問14-1 P55)

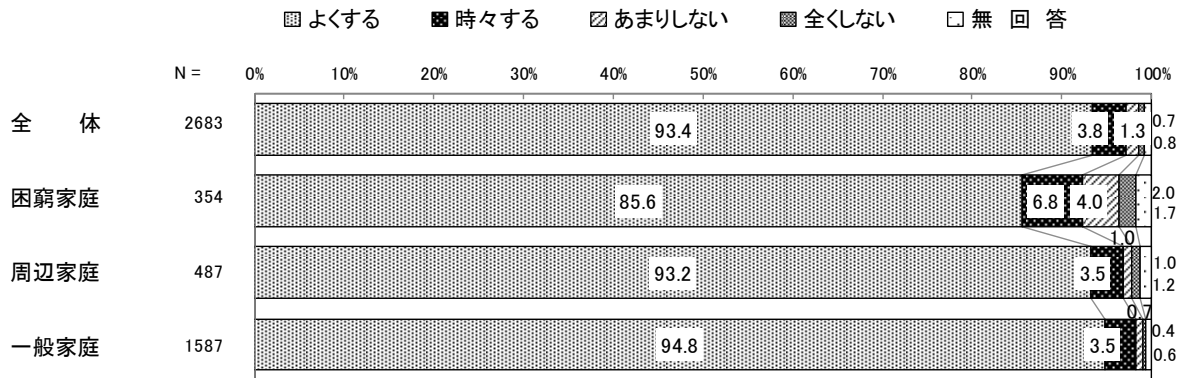


④生活習慣・日常生活

朝食の摂取頻度については、一般家庭と比べて困窮家庭で「よくする」という回答がやや少ない。また、困窮家庭では、『子どもの勉強をみる』についても割合がやや低く、子どもと関わる機会・頻度が低くなっている。

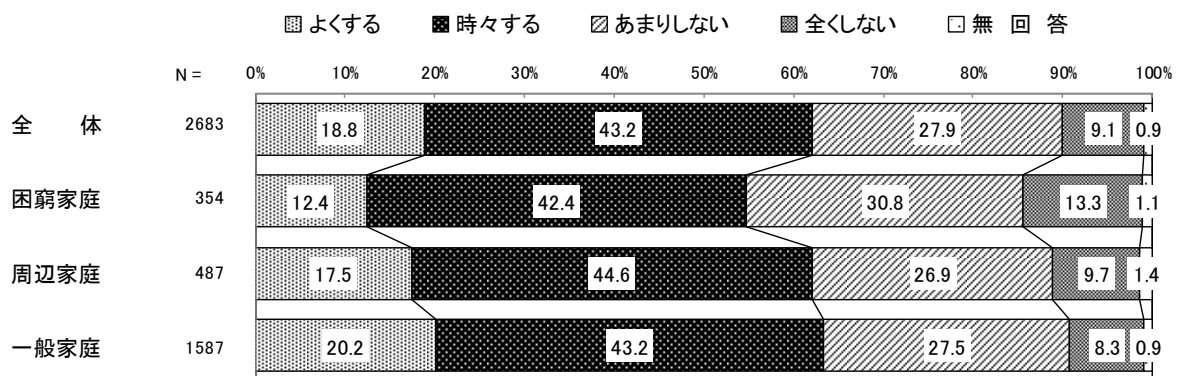
図表 平日の朝食の摂取頻度(保護者 問 10A P25)

問10A 毎日お子さんに朝食を食べさせている[%]



図表 お子さんの勉強をみる(保護者 問 10B P26)

問10B お子さんの勉強をみる[%]

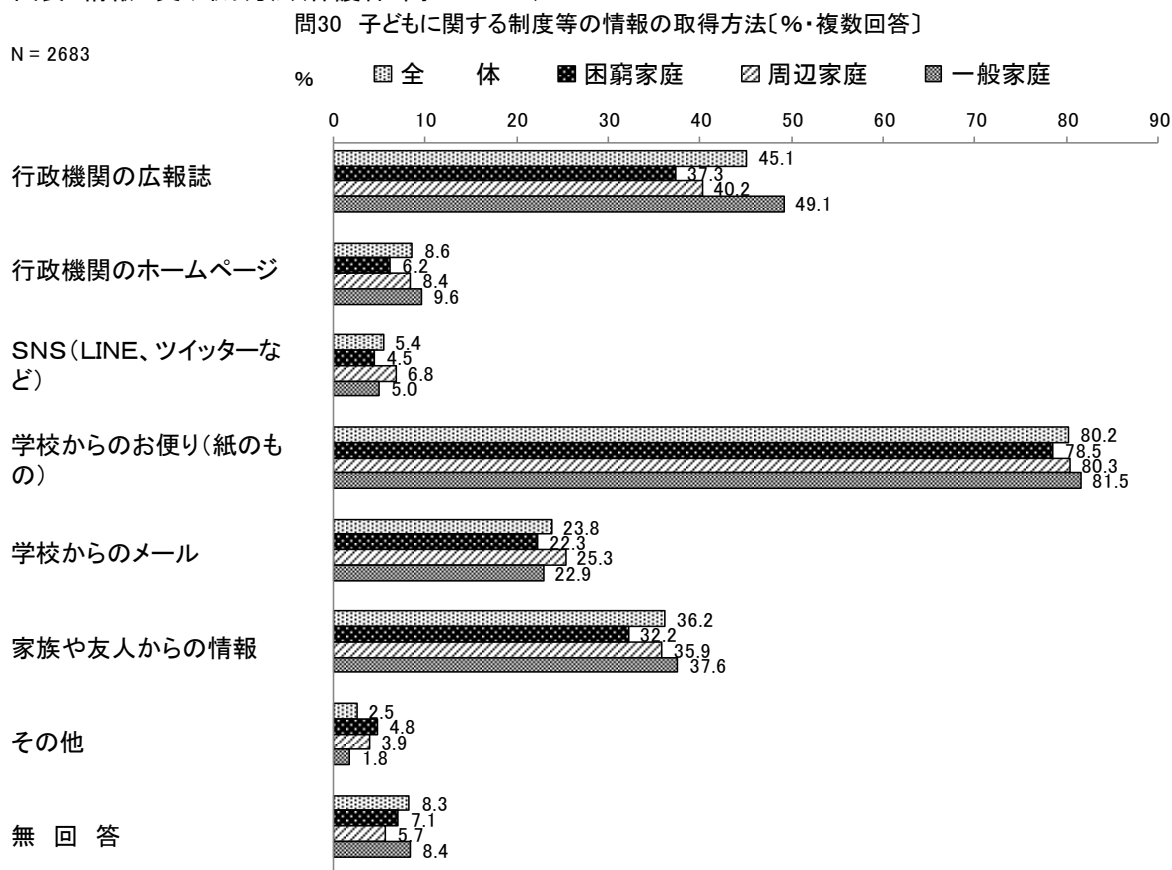


(4) 保護者や子どもに対する支援に関すること

①子育て情報

子どもに関する制度等の情報の取得方法は、全体では「学校からのお便り(紙のもの)」が80.2%と最も多く、「行政機関の広報誌」と「家族や友人からの情報」も多いが、困窮家庭はいずれの方法も他の家庭に比べ回答が少ない。

図表 情報の受け取り方法(保護者 問30 P110)



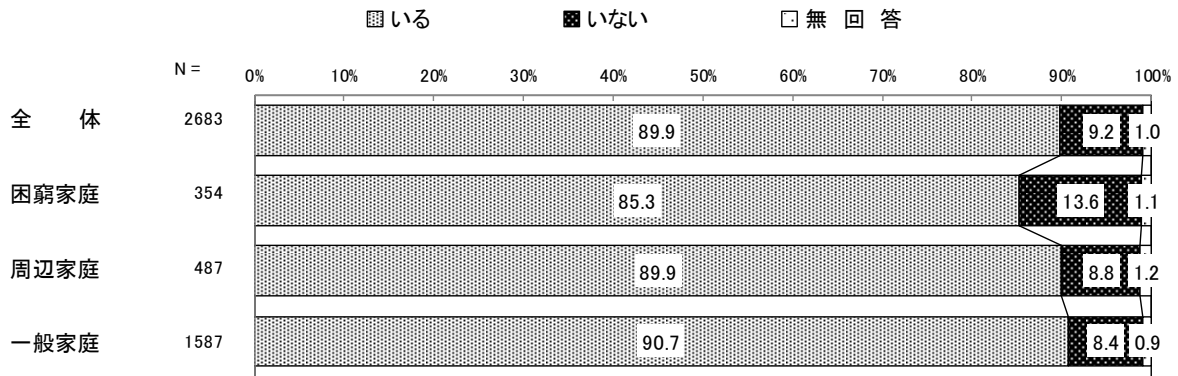
②保護者の不安・相談

子どもの病気の時や用事の時等に頼れる親族・友人については、困窮家庭では頼れる人が「いない」という回答が13.6%であり、悩み事を相談できる相手が「いない」という回答も11.0%と高い。

また、相談相手がいる回答者の相談先として、困窮家庭の保護者は、一般家庭と比較すると、「配偶者・パートナー」等の家族や友人、職場関係者とする回答の割合は低い。

図表 頼れる親族・友人の有無(保護者 問6 P12)

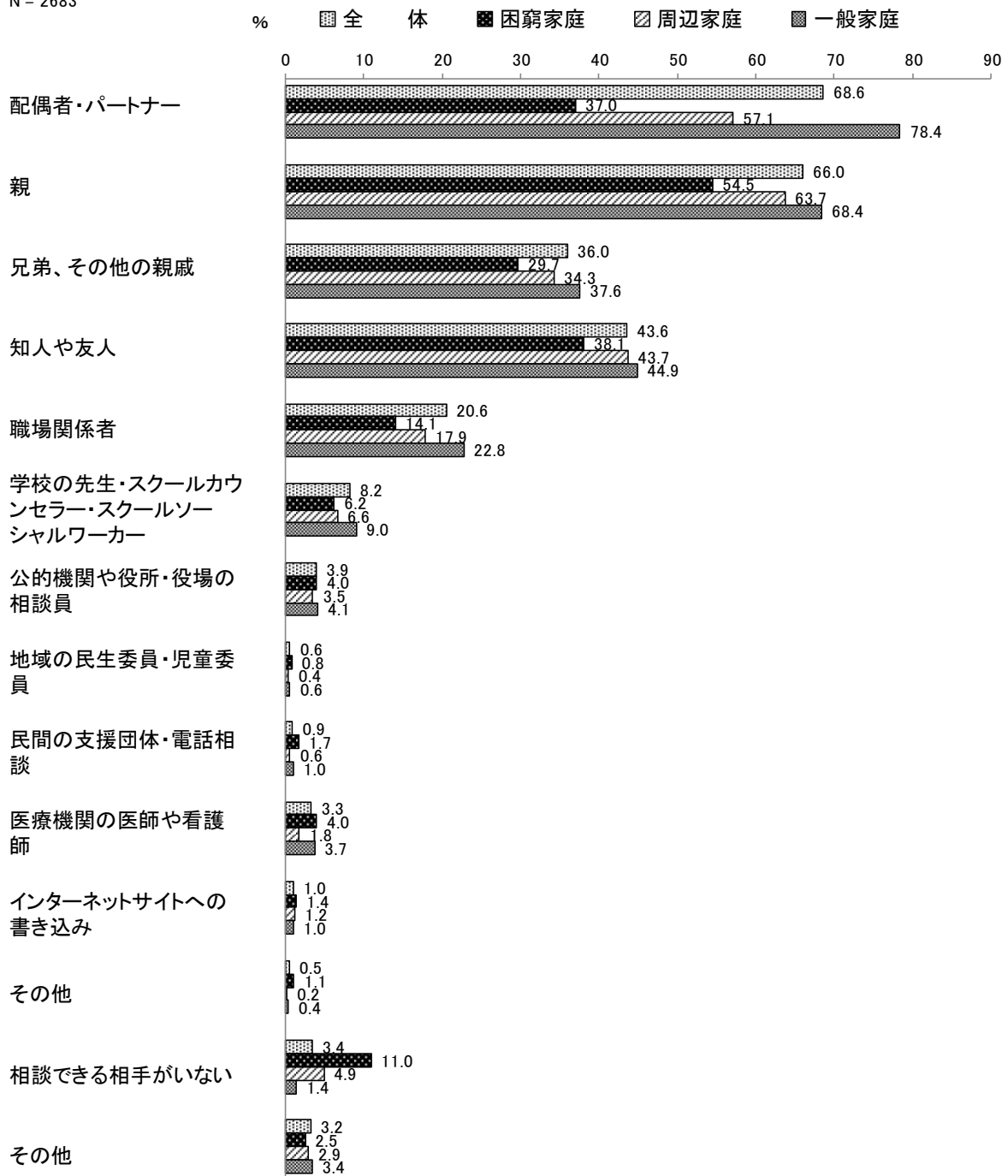
問6 子どもの病気の時や用事の時等に頼れる親族や友人〔%〕



図表 困った時や悩みを相談する相手・相談先(保護者 問27 P92)

問27 困った時や悩みを相談する相手・相談先〔%・複数回答〕

N = 2683

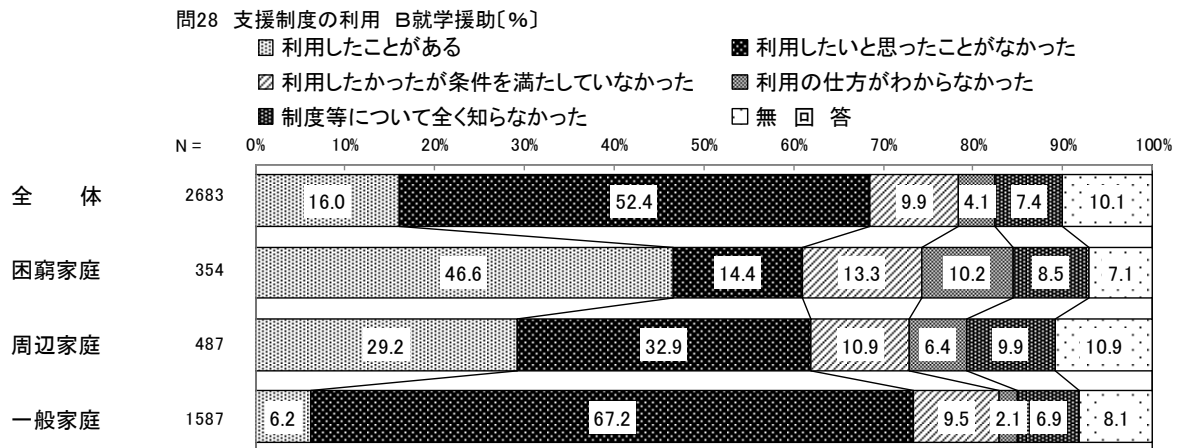


③子育て支援サービス等

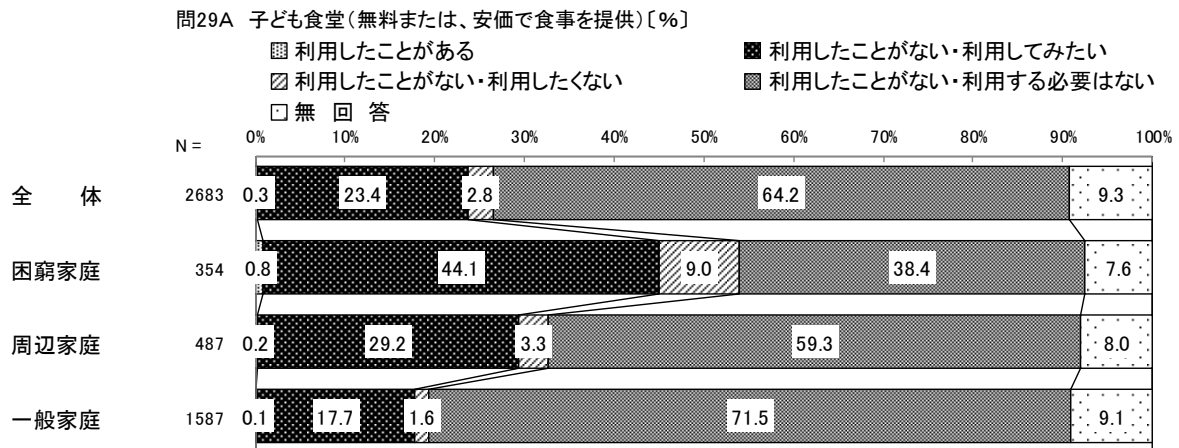
就学援助支給は、「利用したことがある」が困窮家庭・周辺家庭でそれぞれ46.6%、29.2%と高い。

「子どもの居場所」に関する支援について、困窮家庭・周辺家庭は一般家庭と比べて利用希望が高い。困窮家庭において「利用したことがない・利用してみたい」と回答した保護者の割合は、『子ども食堂』が44.1%、『食糧支援』が51.4%、『居場所づくり』が48.3%、『学習支援』が70.1%である。

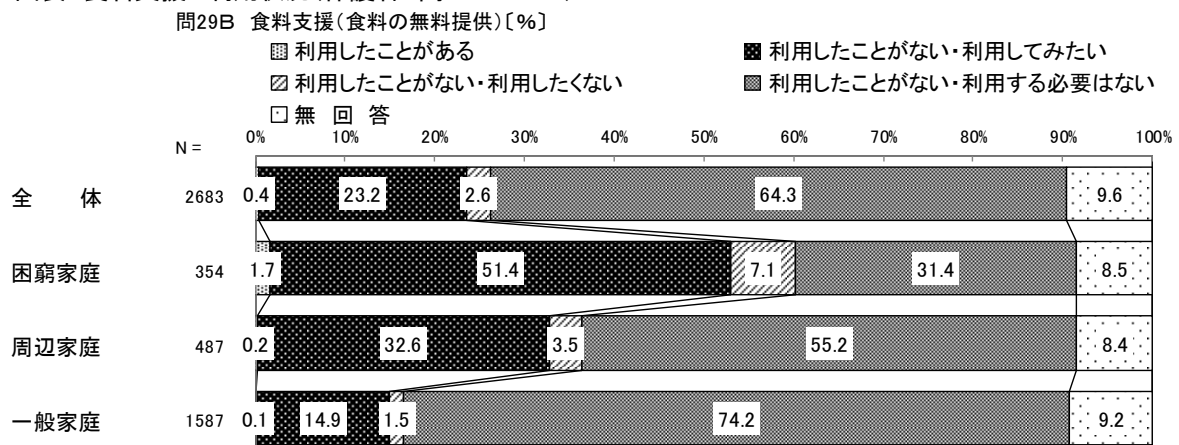
図表 就学援助支給の有無(保護者 問 28B P98)



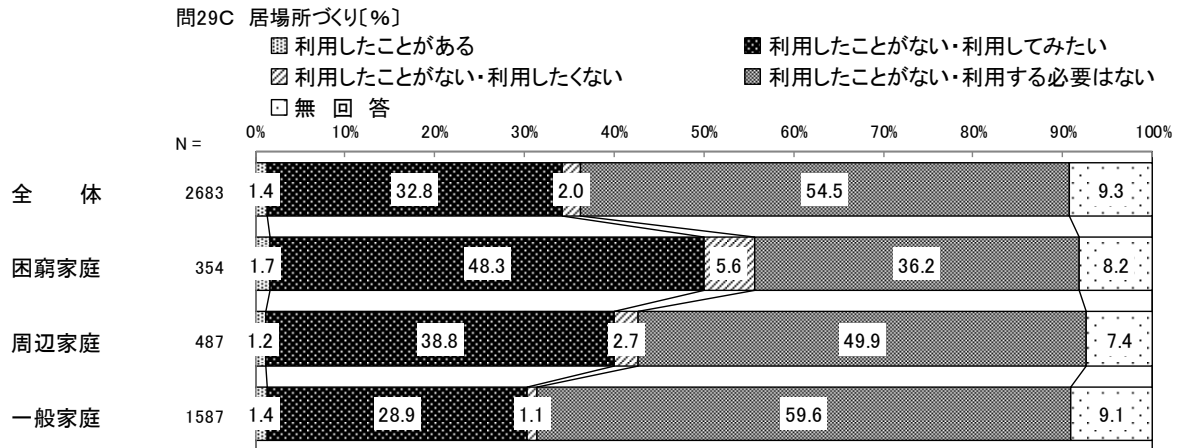
図表 子ども食堂の利用状況(保護者 問 29A P102)



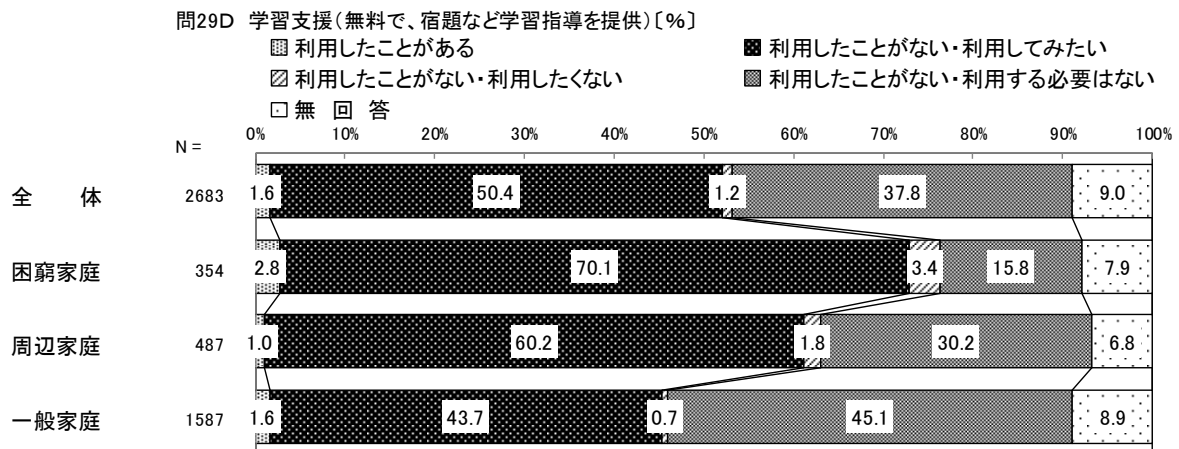
図表 食料支援の利用状況(保護者 問 29B P104)



図表 居場所づくりの利用状況(保護者 問 29C P106)



図表 学習支援の利用状況(保護者 問 29D P108)



2. 子ども本人の状況（子ども調査から）

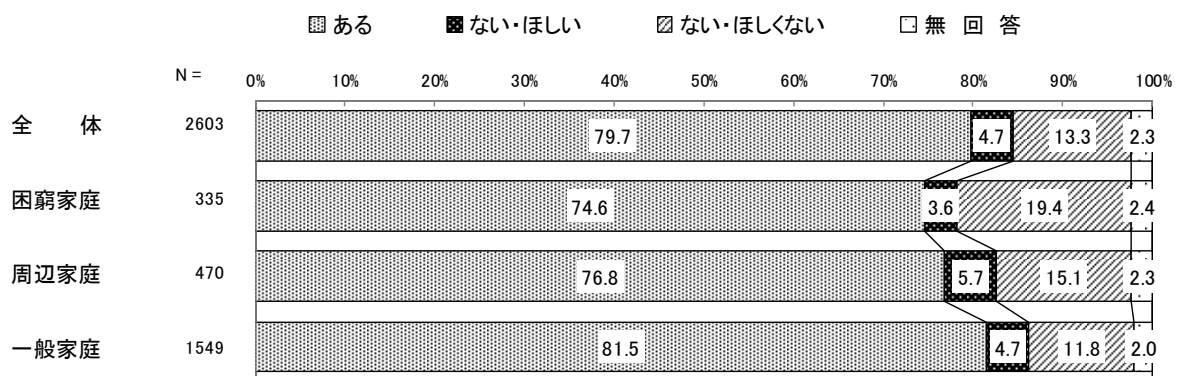
(1) 持ち物・所有物に関すること

① 持ち物・所有物

子どもの持ち物・所有物として、自分が使うことができるものの回答をみると、困窮家庭で「ある」割合が全体よりやや低い傾向がみられるが、スマートフォンの所有率については、生活困難状況による違いはあまりない。

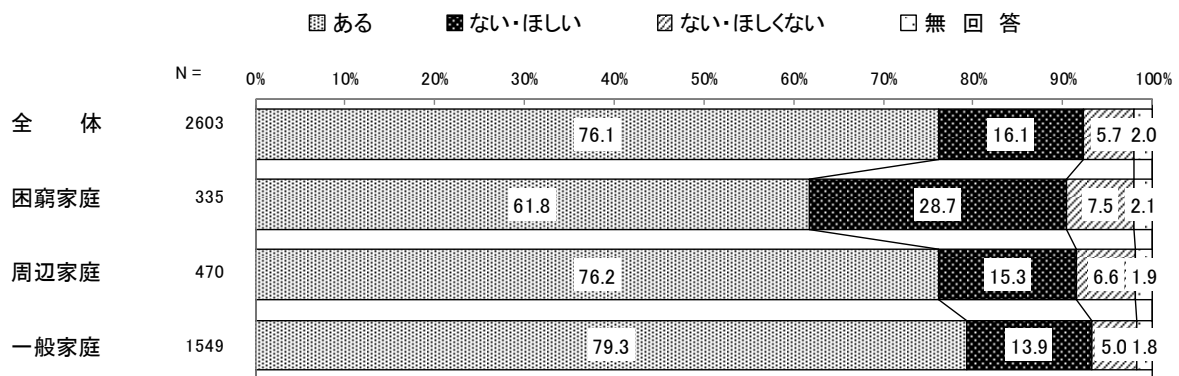
図表 自分が使うことのできるもの 自分だけの本(子ども 問 15A P147)

問15A 自分だけの本(学校の教科書やマンガは除く) [%]



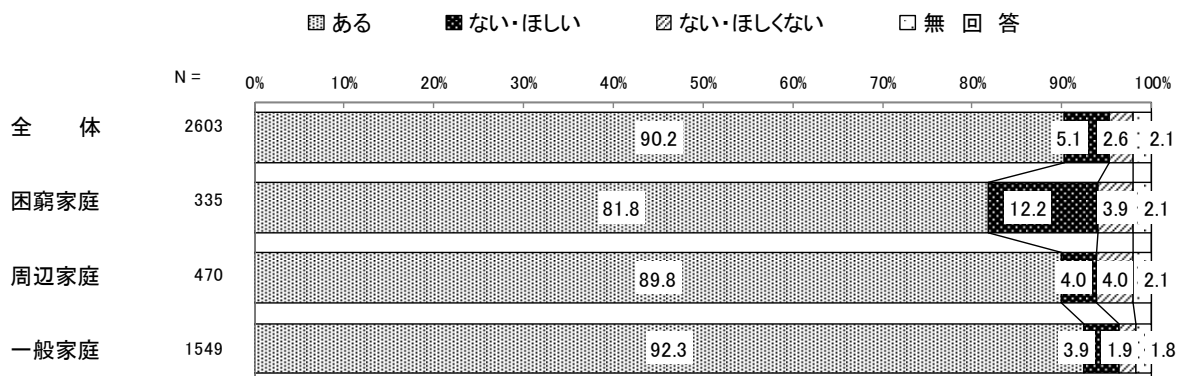
図表 自分が使うことのできるもの 子ども部屋(子ども 問 15B P148)

問15B 子ども部屋(兄弟姉妹と使っている場合も含みます) [%]



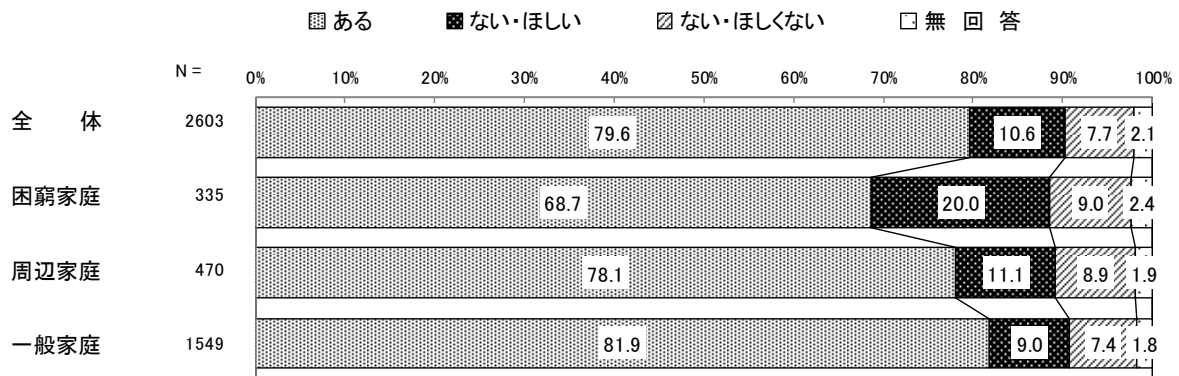
図表 自分が使うことのできるもの 自宅で宿題をすることができる場所(子ども 問 15D P150)

問15D 自宅で宿題をすることができる場所 [%]



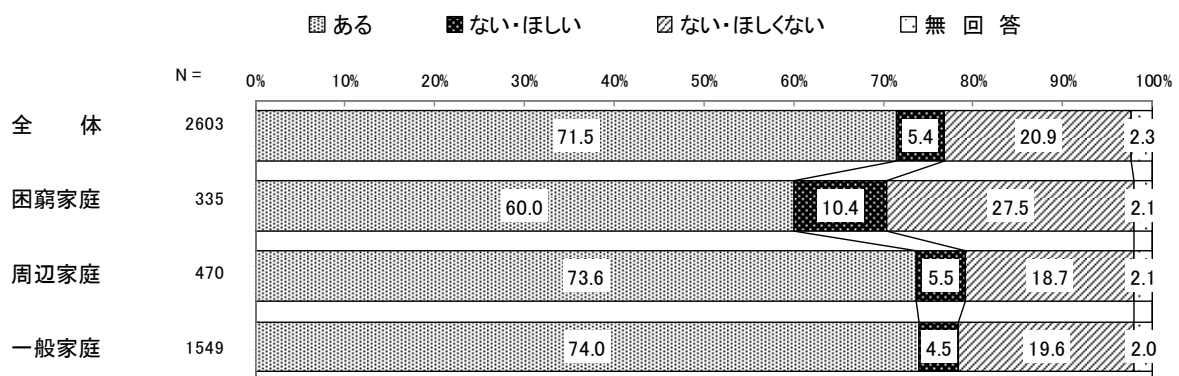
図表 自分が使うことのできるもの 自分専用の勉強机(子ども 問 15E P151)

問15E 自分専用の勉強机[%]



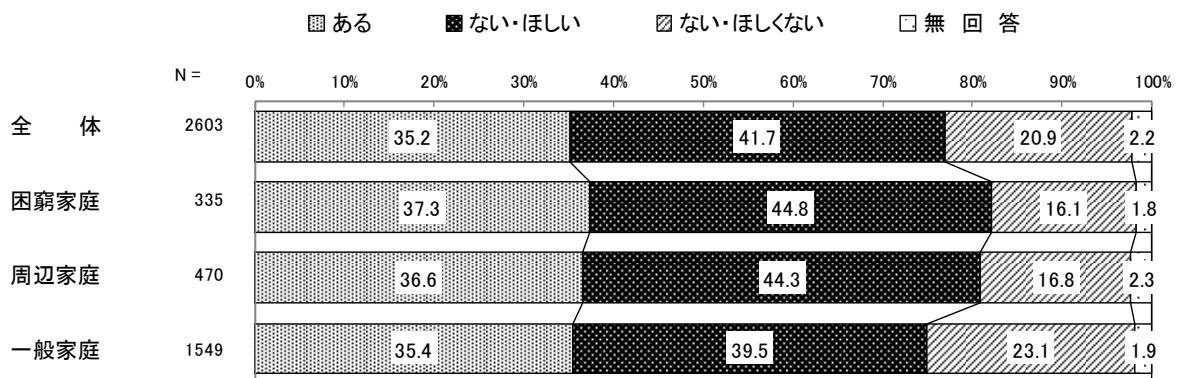
図表 自分が使うことのできるもの スポーツ用品(子ども 問 15F P152)

問15F スポーツ用品[%]



図表 自分が使うことのできるもの 携帯電話・スマートフォン(子ども 問 15M P159)

問15M 携帯電話、スマートフォン[%]



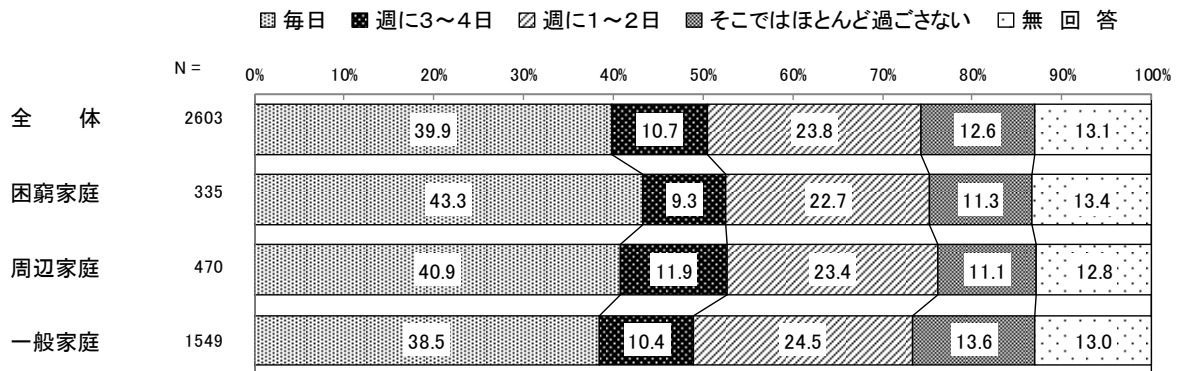
(2) 家庭生活に関すること

①放課後の過ごし方

放課後過ごす場所は、一般家庭と比べて、困窮家庭では自分の家で「毎日」過ごす割合がやや高く、困窮家庭・周辺家庭では塾や習い事は「そこではほとんど過ごさない」が高い。

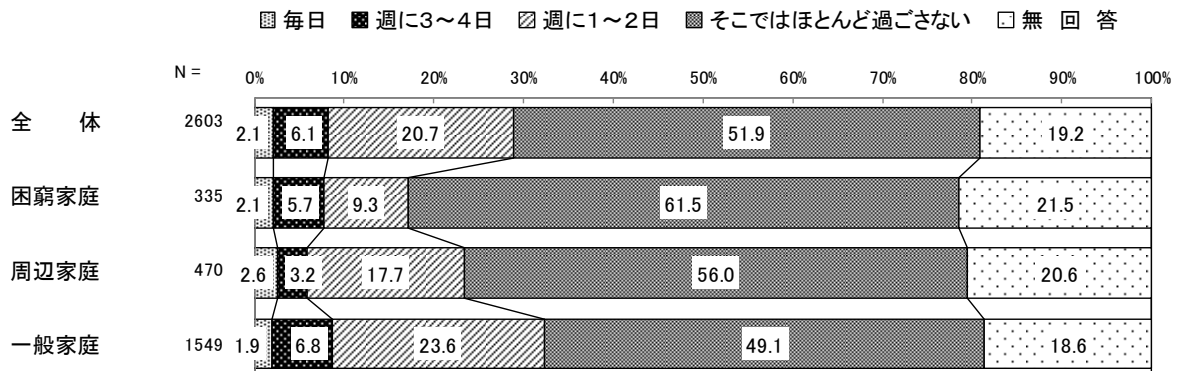
図表 平日の放課後過ごす場所 自分の家(子ども 問 12A P131)

問12 平日の放課後過ごす場所 A自分の家[%]



図表 平日の放課後過ごす場所 塾や習い事(子ども 問 12C P132)

問12 平日の放課後過ごす場所 C塾や習い事[%]



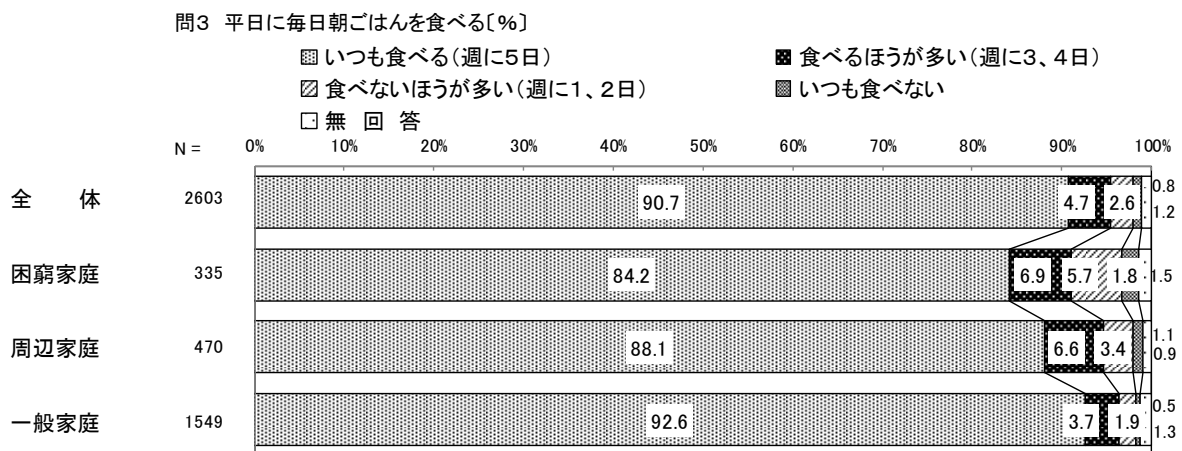
(3) 生活習慣に関すること

①朝食欠食・孤食

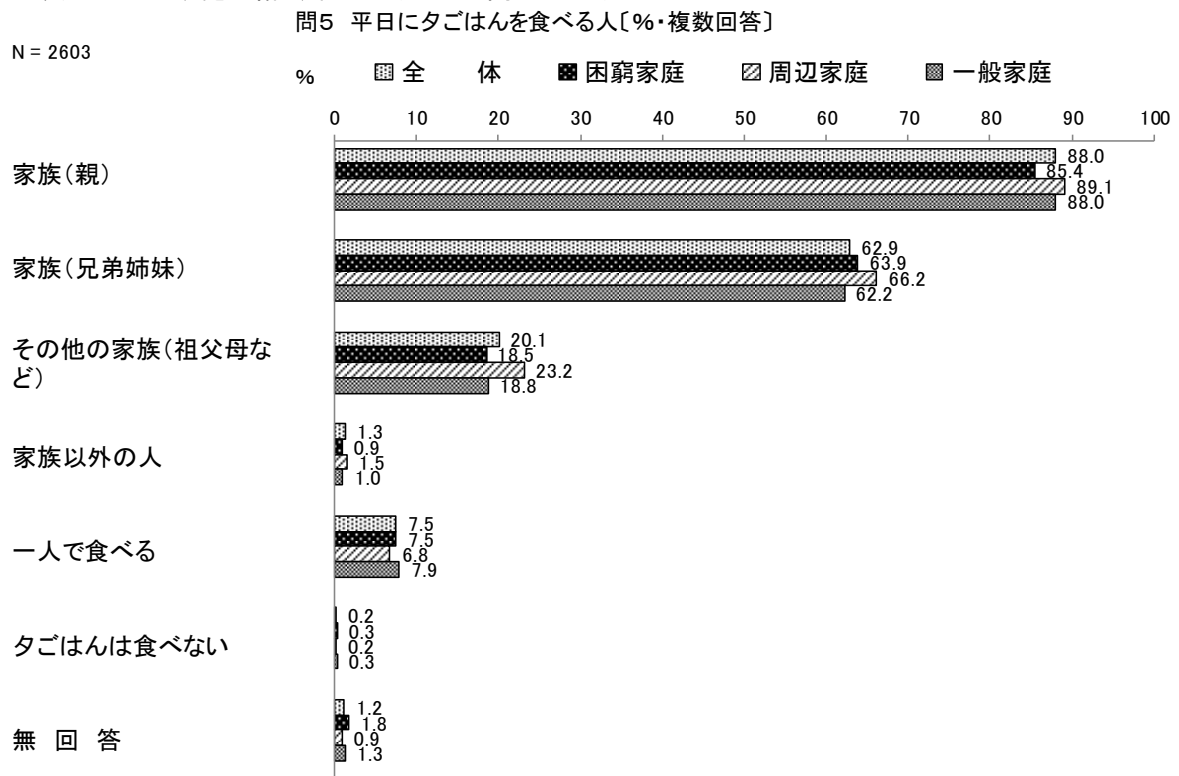
朝食欠食は、一般家庭より困窮家庭・周辺家庭で多く回答されており、欠食日数も多い。また、平日の夕食を一緒に食べる人は、「家族(親)」が困窮家庭で周辺家庭、一般家庭よりやや低い。

食生活については、一般家庭と比べて、困窮家庭では『コンビニのおにぎり・お弁当』、『カップめん・インスタントめん』の摂取頻度が高く、加工食品やできあいの食品が多い傾向がみられる。

図表 平日の朝食の摂取頻度(子ども 問3 P115)

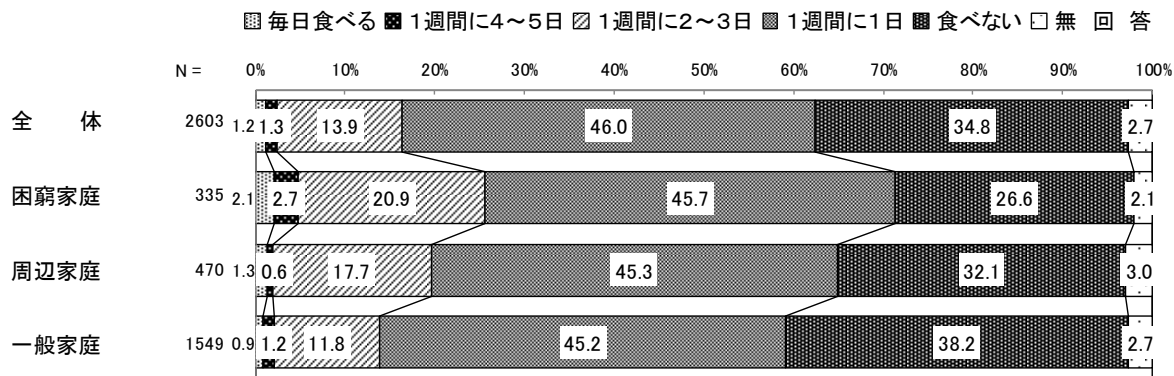


図表 平日の夕食を一緒に食べる人(子ども 問5 P118)



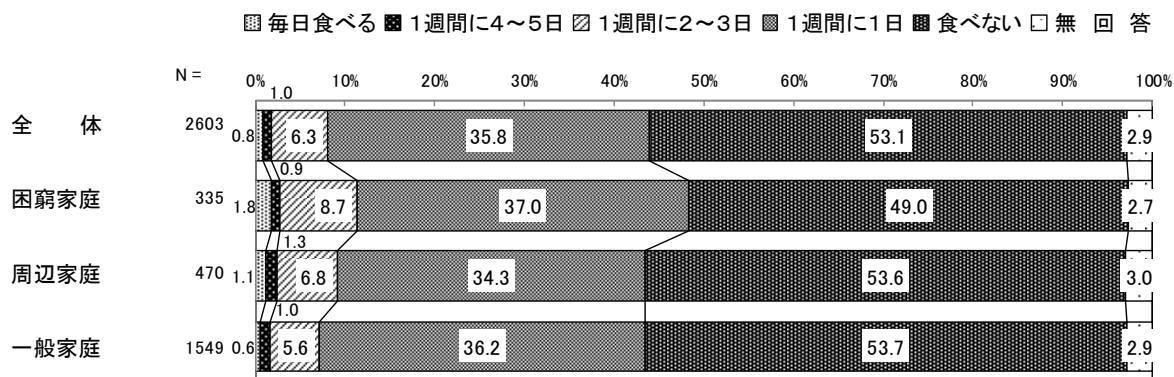
図表 カップめん・インスタントめんをふだんどのくらい食べているか(子ども 問6D P122)

問6D カップめん・インスタントめん[%]



図表 コンビニのおにぎり・お弁当をふだんどのくらい食べているか(子ども 問6E P123)

問6E コンビニのおにぎり・お弁当[%]



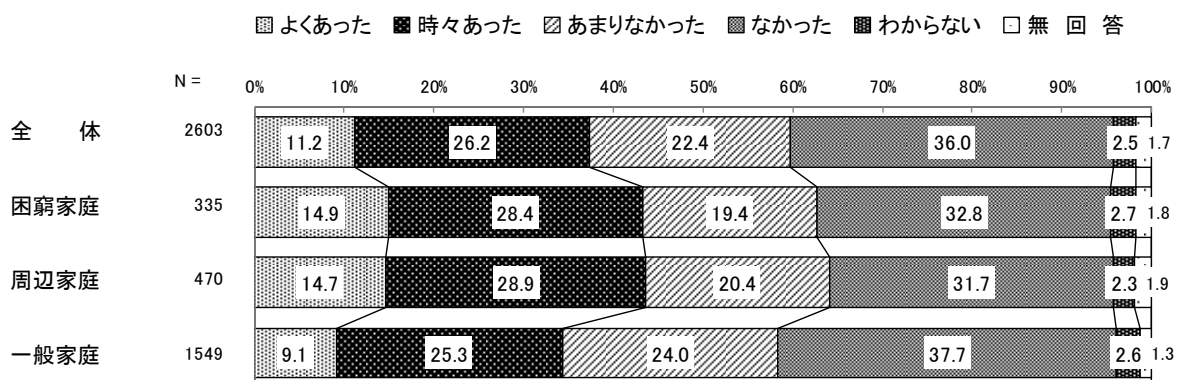
(4) 学び・学習・学校生活に関すること

①学校生活

困窮家庭、周辺家庭では学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」、「時々あった」という割合が一般家庭より高い。1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)ことがあったかは、困窮家庭で「よくあった」という回答がみられる。

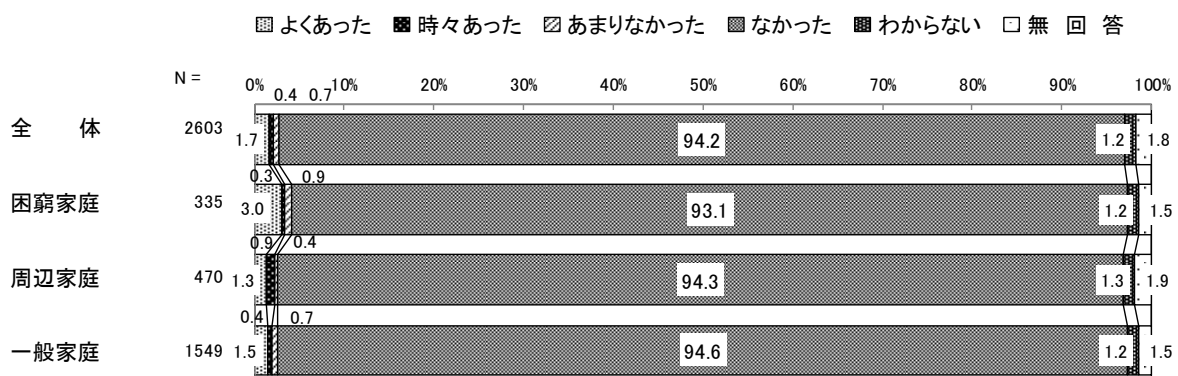
図表 学校に行きたくないと思った(子ども 問 22A P172)

問22A 学校に行きたくないと思った〔%〕



図表 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)(子ども 問 22B P173)

問22B 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)〔%〕



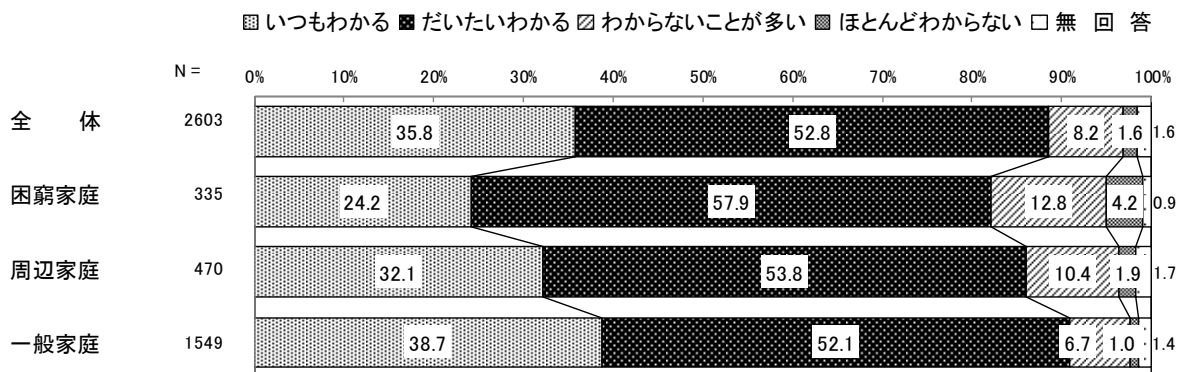
②学業・勉強

学校の授業の理解度について「いつもわかる」が困窮家庭、周辺家庭では一般家庭より低い。

勉強を教えてもらう相手は、困窮家庭で「親」、「塾や習い事などの先生」が一般家庭より低く、「友だち」がやや高い。クラスの中での成績は『下のほう』（「やや下のほう」と「下のほう」の合計）は生活困難度が上がると割合が高くなる傾向がみられる。

図表 学校の授業の理解度(子ども 問 17 P163)

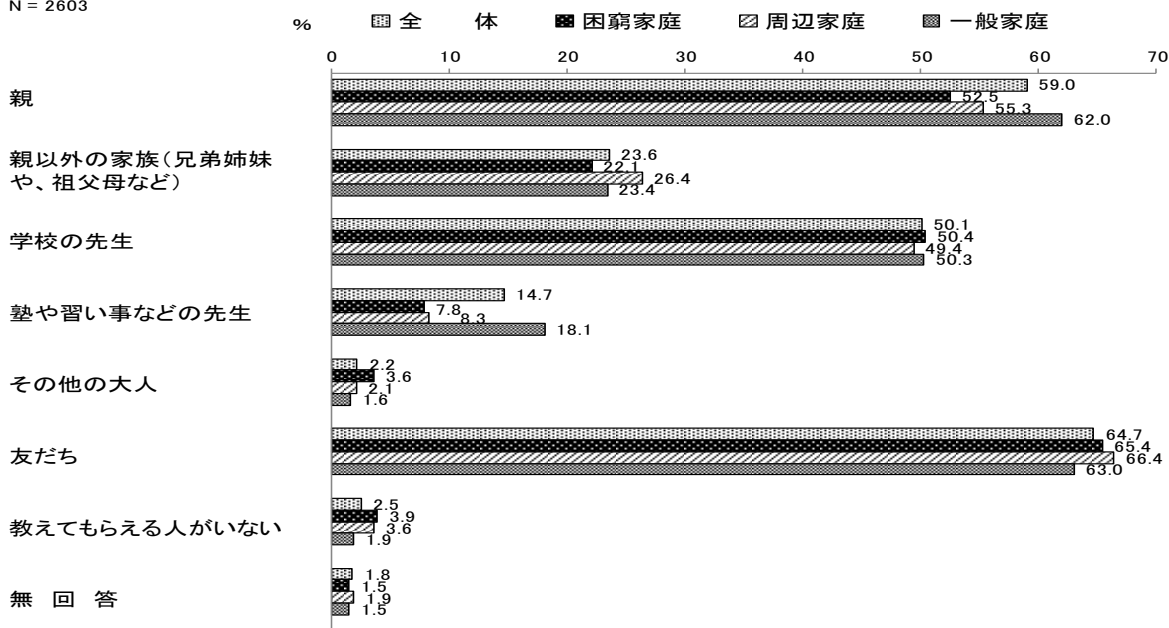
問17 学校の授業[%]



図表 勉強がわからない時に教えてもらう相手(子ども 問 18 P165)

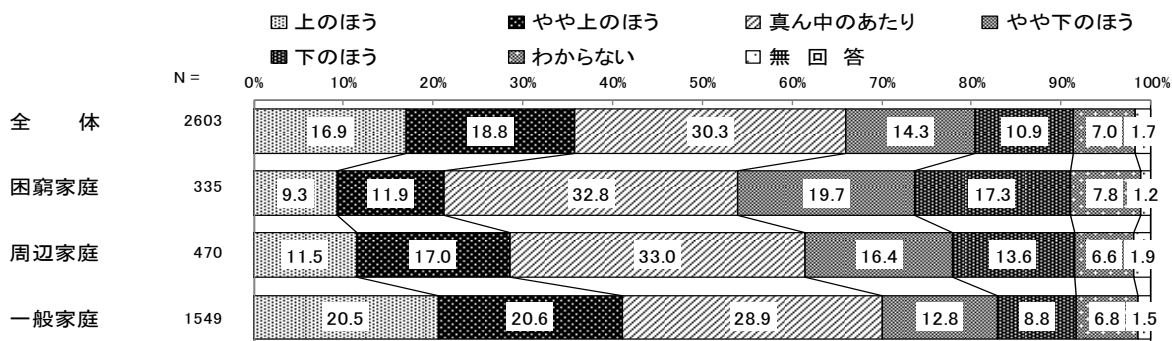
問18 勉強がわからない時に教えてもらう相手[%・複数回答]

N = 2603



図表 クラスの中での成績(子ども 問 19 P167)

問19 クラスの中での成績[%]



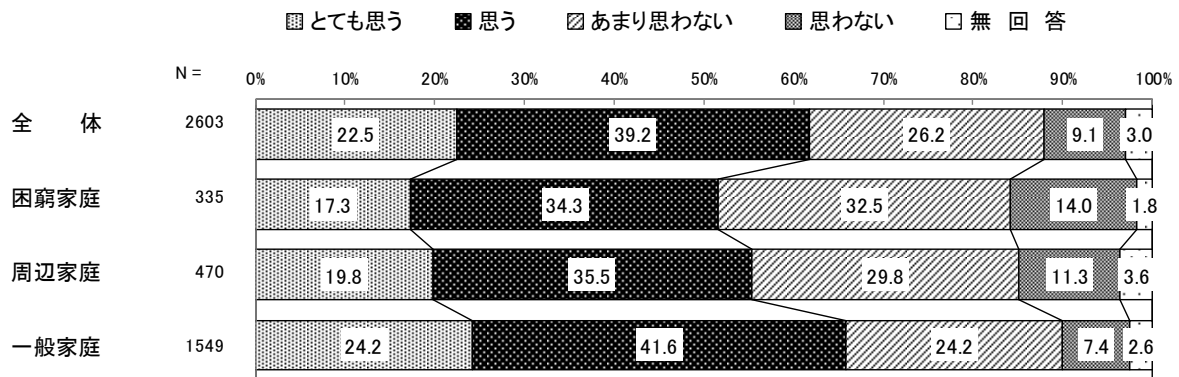
(5) 自分のこと、進路・自立に関すること

① 自己肯定感

自分は価値のある人間だと思うかという設問で、困窮家庭、周辺家庭で『思う』(「とても思う」と「思う」の合計)が一般家庭より低い。自分は友だちに好かれていると思うかは、生活困難度が上がるにつれて「とてもそう思う」が低くなっている。

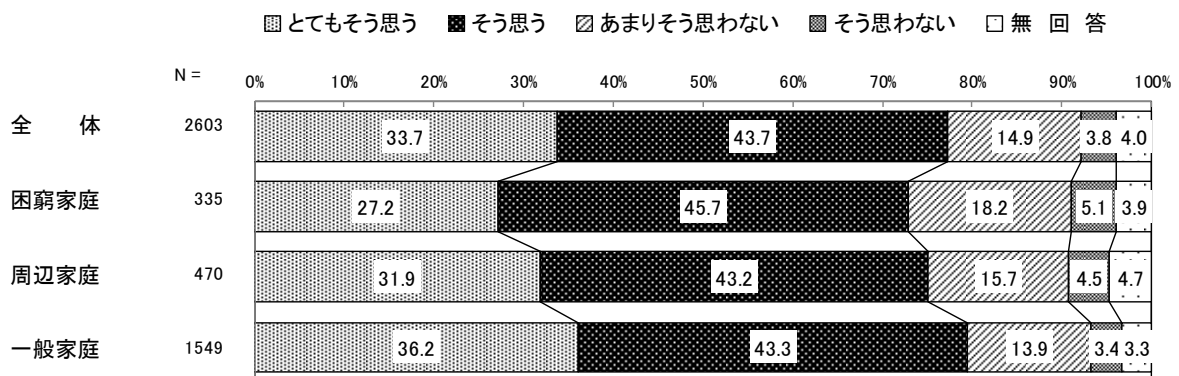
図表 自分は価値のある人間だ(子ども 問 29B P190)

問29B 自分は価値のある人間だと思う[%]



図表 自分は友達に好かれている(子ども 問 24C P182)

問24C 友だちに好かれていると思う[%]



②将来について

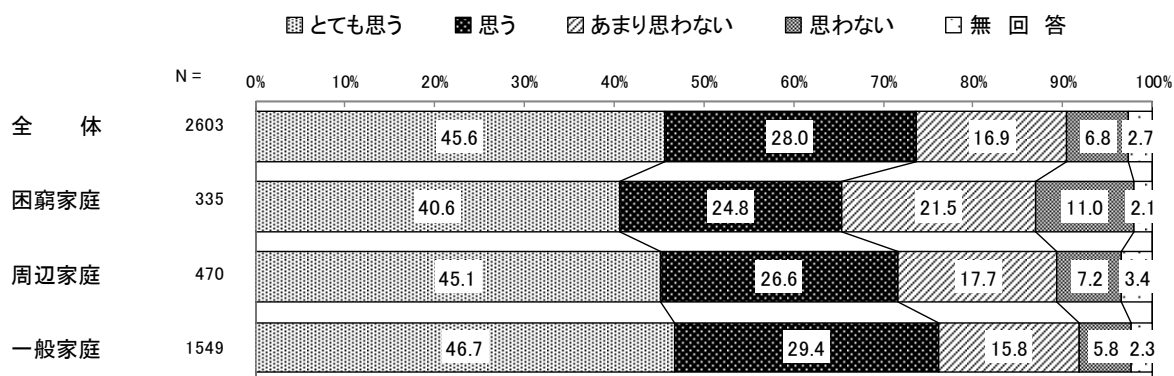
将来の展望については、自分の将来が楽しみかという設問で困窮家庭は「とても思う」が一般家庭よりやや低い。

将来の進学希望段階は、一般家庭では「大学またはそれ以上」が42.3%と高いが、困窮家庭と周辺家庭ではそれぞれ23.3%、28.1%となっている。

将来の進学可能段階は、一般家庭では「大学またはそれ以上」が30.0%に下がるが、困窮家庭と周辺家庭ではそれぞれ11.0%、17.9%となっている。

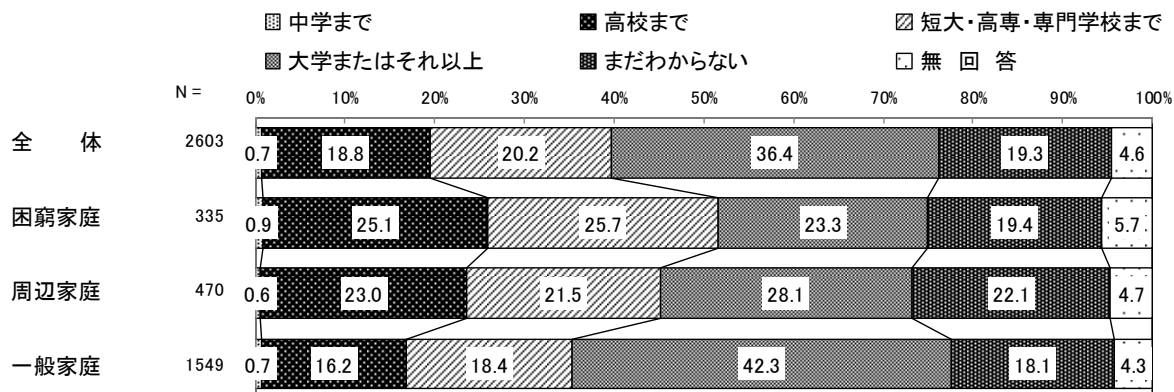
図表 自分の将来が楽しみだ(子ども 問 29F P196)

問29F 自分の将来が楽しみだ[%]



図表 将来の進学希望段階(子ども 問 27 P186)

問27 将来の進学希望段階[%]



図表 3-37 将来の進学可能段階(子ども 問 28 P187)

問28 将来の進学可能段階[%]

